

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	言語・発達サポートルームソラシド			
○保護者評価実施期間	令和7年7月7日		～	令和7年8月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	令和7年7月7日		～	令和7年 7月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年8月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の強みは、一人ひとりの特性に応じた 個別支援の充実です。 少人数制の落ち着いた環境で、子どもたちが安心して楽しく通えているという声が多く寄せられています。 また、通所を通じて会話力やコミュニケーション能力が伸びたといった成長の実感を保護者が感じている点も大きな特徴です。 職員配置についても基準を満たし、研修や社内連携を行うなど、専門性の向上と安定した支援提供に努めていること	個別支援の充実 1. 工夫していること 少人数制で子どもが安心して過ごせる環境を作っている 子どもの特性や発達段階に応じて、遊びや学習支援の内容を柔軟に調整している 職員間で情報共有を行い、支援内容や子どもの様子をチームで把握できるようにしている 2. 意識的に行っている取組 社内研修や勉強会を通して職員の専門性向上に努めている 担当職員が継続して支援に入ること、子どもとの信頼関係を深めることを意識している 支援プログラムの内容をHPで公表し、保護者に分かりやすく情報提供している	・支援内容や活動の記録を保護者に定期的に共有し、家庭での理解・協力につなげる ・面談や個別の相談の機会を増やし、子どもや保護者の思いをより丁寧に受け止める ・活動や成長の成果を可視化するプリントや写真の活用など、日々の支援をより「見える化」する
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への情報共有の不足 が挙げられます。送迎時に日々の様子を十分に伝えられなかったり、取り組んだ活動が持ち帰れないため「何をしているのか分からない」という声があるなど、活動内容や支援の進捗を可視化する仕組みが十分とは言えません。	送迎時に限られた時間しか取れないため、日々の活動内容や子どもの様子を十分に伝えられない 活動内容や支援の記録が保護者に可視化されておらず、子どもが何をしているのか分かりにくい 個別支援中心の運営のため、日常の様子や成長の共有に対する仕組みが十分に整っていない	保護者が安心してお子さまを預けられるよう、面談や記録の共有、プリント類の持ち帰りなどを積極的に取り入れ、家庭と連携した支援体制を強化していく必要があります。 活動や支援の記録を整理し、プリント、簡易レポートなどで保護者に定期的に共有する 面談や個別相談の機会を増やし、保護者の質問や要望に丁寧に対応する 送迎時に短時間でも子どもの様子を伝えられる仕組み（記録シート、チェックリストなど）を導入する 支援内容や成長の状況を可視化し、家庭と施設で共通理解できる環境づくりを進める
2			
3			